

親鸞聖人生誕 850 年特別展「親鸞と東北地方の念仏 ひろがる信仰の世界(仮)」について

1 趣旨

令和5年(2023)に浄土真宗の開祖・親鸞(1173~1262)の生誕から850年を迎え、また令和6年(2024)は親鸞が主著『教行信証(顕浄土真実教行証文類)』を著してから、ちょうど800年となります。親鸞は常陸国南部(現在の茨城県笠間市周辺)を拠点として長く活動し、多くの門弟に教えを授けました。門弟の中には東北地方へ教えを広げた者があり、以後の浄土真宗の歴史において、東北地方の門弟たちは幾度も重要な役割を果たしました。

この展覧会は、浄土真宗各派の本山や東北各県の寺院などに伝わった貴重な文化財を通じ、東北地方における浄土真宗の展開について紹介するものです。本展が、貴重な宝物を伝えてきた人々と、その背景にある歴史や文化について知って頂く機会となることを願います。

2 主催(予定):「親鸞と東北地方の念仏(仮)」実行委員会

(仙台市博物館、株式会社大塚巧藝社)

3 会期:令和6年9月10日(火)~11月4日(月・祝) 開館日数49日

※休館日:毎週月曜日(9/16・23、10/14、11/4を除く)、9/17(火)・9/24(火)

※10/15(火)は開館

4 観覧料:一般1,600円、高校・大学生 1,200円、小・中学生800円

※観覧券の前売り実施を検討中

※10名以上の団体各100円引

5 特別協力(予定):真宗教団連合

6 企画協力:赤松徹真(本願寺史料研究所所長)

草野顕之(大谷大学 名誉教授)

岡村喜史(本願寺史料研究所 上級研究員)

安藤 弥(同朋大学文学部 教授)

7 主な展示資料(予定) ※会期中展示替えを行います。

- ・国宝 教行信証(坂東本) 東本願寺蔵
- ・国宝 親鸞聖人影像(安城御影・副本) 西本願寺蔵
- ・国宝 三十六人家集(うち6冊) 西本願寺蔵
- ・国宝 三帖和讃 専修寺蔵
- ・重要文化財 一流相承系図 佛光寺蔵
- ・重要文化財 慕婦絵 巻4・6 西本願寺蔵
- ・重要文化財 親鸞聖人影像(安城御影) 東本願寺蔵
- ・重要文化財 親鸞聖人伝絵(康永本) 東本願寺蔵

このほか、東北6県を中心に資料を借用し展示します。